

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	58人	算数	58人	理科	58人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	54人	算数	54人	理科	54人
------	----	-----	----	-----	----	-----

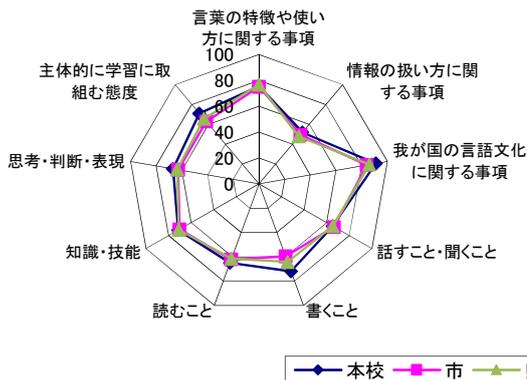
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために、分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.5	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	51.8	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	91.1	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	65.4	66.5	65.5
	書くこと	71.9	59.6	64.2
	読むこと	64.9	62.2	61.5
観点	知識・技能	71.6	70.2	71.1
	思考・判断・表現	66.9	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	71.1	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

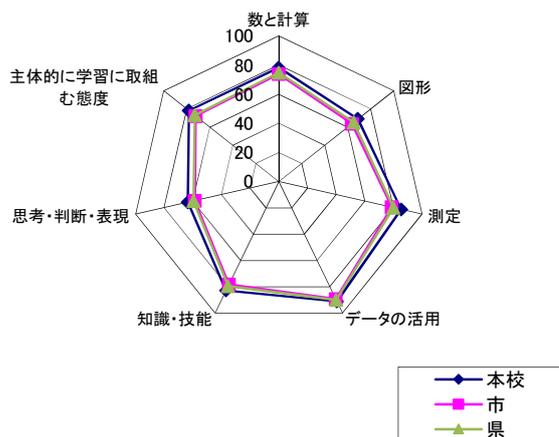
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。 ○漢字の読む、書く問題では、正答率が県や市の平均とほぼ同じであり、既習の漢字がおおよそ身に付いていると考えられる。 ●ローマ字で表記されたものを読む問題では、県の平均より6.7%下回っており、ローマ字の読み方の理解が十分ではないと考えられる。	・情報教育と関連付けて、ローマ字入力によるパソコンの活用をするなど、日常的にローマ字に触れる機会を増やす。 ・朝の学習や家庭学習などを通して、ローマ字の学習を継続していく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。 ○国語辞典の使い方の問題では、県や市の平均より上回っており、国語辞典の使い方を理解していると考えられる。 ●情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書く問題では、正答率が33.9%と低く、県の平均より3ポイント低い。条件に合わせて書く力が十分に身に付いていないと考えられる。	・総合的な学習や社会科など、調べたことをまとめる活動を通して、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書く経験を積む場を意図的に設定していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○漢字のへんやつくりを選ぶ問題では、県の平均を5.2ポイント、市の平均を7.1ポイント上回り、漢字の部首についてはよく理解していると言える。	・引き続き各種ドリルの活用、朝の学習、家庭学習などを通して、漢字の学習を継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均より低い。 ○互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる問題では、県の平均よりも4.6ポイント高く、考えをまとめる力は身に付いてきていると言える。 ●話合いの内容を聞き取る問題では、伝えたいことの中心や話し手の工夫を捉えることの正答率がやや低く、十分ではないと考えられる。	・対話的な活動を授業の中で積極的に取り入れる。 ・国語の時間を中心に、話合いの内容を正確に聞き取る経験を多く積ませるようにする。
書くこと	平均正答率は、県や市の平均よりも高い。 ○文章を指定された長さで書く問題では、正答率が、県の平均より16.7ポイント上回り、自分の考えを明確にして書く力が身に付いていると言える。	・国語の文章を書く活動や日常的な日記等の指導において、段落構成を意識して文章を書く経験を積ませる。 ・新聞やリーフレットを作る活動などを通して、調べたことを分かりやすく伝える力を身に付けさせる。 ・自ら書きたいと思うような活動を各教科の中で取り入れる。
読むこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○説明文の内容を読み取る問題の正答率は、県の平均より高い。 ●物語の内容を読み取る問題では、県や市の平均をやや下回っており、登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える力や場面の様子について段落の繋がりを捉える力が十分でない。	・説明文では、文章にあげられた事例の他にどのような事例があるか考えたり、実際に他の事例を挙げて類似の文章を書いたりすることで理解を深める活動を取り入れる。 ・物語文や説明文などの本に触れる機会を意図的に多く設定していく。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.2	73.8	74.8
	図形	68.9	63.7	65.3
	測定	85.4	78.9	80.1
	データの活用	91.1	89.3	90.0
観点	知識・技能	82.9	78.3	79.5
	思考・判断・表現	63.5	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	78.1	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

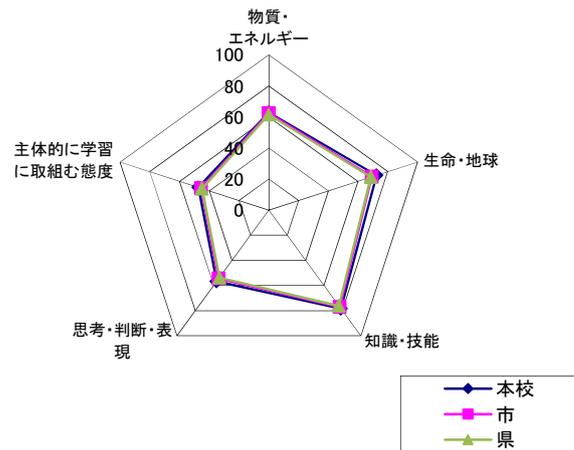
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○口を使った数に関する問題では、校内正答率が県より9ポイント以上高い。少数のしくみでは正答率が100%であった。コース別学習や小人数指導を充実させた成果だと思われる。 ●数直線上に示された分数を読み取ることに課題がみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> コース別学習や小人数指導で、反復練習や個別指導を継続し、つまづきが見られた場合は、その場で指導に当たるようにする。 分数の指導の際に、分数の意味や表し方について再度理解を深める。
図形	<p>校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○円の半径とコンパスの使い方について、県の平均より10ポイント以上高かった。様々な図形の作図を繰り返し行った成果だと思われる。 ●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由について課題がみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝のステップアップやコース別学習等で、個別の支援を行い、基礎的な事項の定着を図る。 授業において、説明し合う学習を積極的に取り入れ、考察したことを表現する機会を増やし、理解が深まるようにする。
測定	<p>校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○地図から道のりを読み取り、その和を求める問題や、身近にあるものの重さを推察して、適切な単位で表す問題では、校内正答率が県の正答率を大きく上回った。実際にはかりを使った操作活動等を繰り返し行った成果だと思われる。 ●はかりの目盛りの読み方は定着が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 操作活動や、実際の生活を想定した身近な数値を使うことにより、目盛りの読み方の定着を図る。 単位の概念については、日常生活や他教科と関連させ、繰り返し取り上げるにより、身に付けさせる。
データの活用	<p>校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○全体的な正答率は高く、概ね理解できている。グラフの作図等について、繰り返し学習を行った成果だと思われる。 ●棒グラフの1目盛りの表す数の読み取りでは、定着が不十分なところがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 算数の授業だけでなく、他教科でも、表やグラフの読み取りや考察を表現する活動を増やす。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.9	62.5	61.5
	生命・地球	72.4	69.2	68.6
観点	知識・技能	78.5	77.2	76.3
	思考・判断・表現	56.8	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	47.3	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県や市の平均をほぼ上回っている。</p> <p>○光のせいしつでは、虫眼鏡や鏡を使った実験に意欲的に取り組み、興味関心のあるものは学習につなげることができている。</p> <p>●音のせいしつでは、質問の意図を捉えることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なことは理解しているため、活用する実験を取り入れたり、映像を見たりするなど、応用したものなどにも発展させて考える力を育てる。 ・遊びを通して課題を見付け、解決するような展開を目指す。 ・実験の結果や考察を自分の言葉でまとめる活動を繰り返し行うことで、説明する力や質問の意図を捉える力を育てる。
生命・地球	<p>平均正答率は、県や市の平均を上回っている。</p> <p>○基本的な実験や観察の技能は身につけている。</p> <p>●こん虫の育ち方では、完全変態と不完全変態の違いの理解に課題が見られる。</p> <p>●記述問題に苦手意識があるように見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主要語句を使って、自分で単元のまとめをする活動を取り入れ、学習内容の定着を図ることができるようにする。 ・実際に観察できないものに関しては、映像資料やインターネットを活用して調べ、児童の探求的な活動につなげる。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的に回答した児童の割合は(82.1%)8割を超えており、市の平均と比べて5ポイント以上高い。対話的な活動を授業に積極的に取り入れてきた成果が表れてきていると考えられる。

今後は、深まった考えを自分の言葉で文章に表現する機会を増やすなど、さらなる学びの充実につなげていきたい。

○家庭学習に関する質問の肯定的回答率は、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」が75.0%、「家で、学校の授業の復習をしている」が75.0%、「家で、学校の授業の予習をしている」が64.3%で、それぞれの回答で市の平均を10ポイント以上大きく上回っている。家庭学習の指導を重点的に行う期間を設けたり、カレンダーや振り返りカードの活用を図ったりしてきた成果の表れであると考えられる。

今後も家庭との連携を図りながら、内容の工夫にも目を向けられるようなアドバイスをし、更なる充実を目指していきたい。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問について、全くしないと回答した児童の割合が3割を超えていた。また、「新聞を読んでいる」の質問について、ほとんど、またはまったく読まないと回答している児童の割合が8割を超えていた。文章に触れる機会が増えると、語彙力も増え学びの質も高まると考えられる。

引き続き、図書館司書とも連携して本の活用の推進を図ったり、新聞を活用した授業などに取り組んだりして、児童が進んで本や新聞を読む機会を増やしていきたい。

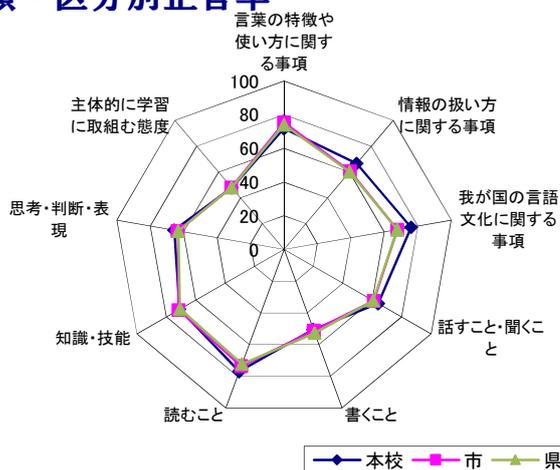
●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか」の質問について、4時間以上と回答した児童が(26.8%)市の平均と比べて5ポイント以上上回った。放課後の時間の使い方が乱れている児童が多いと考えられる。

引き続き、家庭との連携を図りながら規則正しい生活習慣の改善に努めるとともに、長時間のテレビや動画視聴の影響について改めて児童が考える機会を設けていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.8	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	66.7	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	76.0	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	64.0	61.0	60.7
	書くこと	50.5	51.2	52.8
	読むこと	77.0	73.7	72.4
観点	知識・技能	71.0	71.7	70.6
	思考・判断・表現	65.6	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	48.0	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

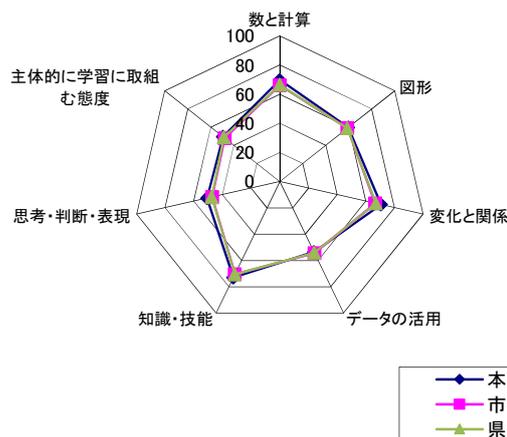
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、読む問題に関しては高く、書く問題では県の平均よりもやや低い ○漢字を読む問題では、全ての問題で正答率が高く、基礎基本の定着が図られていると考えられる。 ●連体修飾語の問題では、正答率が県の平均より15ポイント低く、修飾語の意味や使い方の理解が十分ではないと考えられる。	・言葉の学習に関する小單元の中で着実に身に付けられる工夫をしていく。 ・朝の学習、家庭学習を通して、文の構成の学習を継続していく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。 ○漢字辞典の使い方の問題では、県や市の平均より高く、漢字辞典の使い方を理解していると考えられる。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら決められた文字数で答えることが十分ではないと考えられる。	・読み取りを中心とした学習においても、段落の構成に着目し、段落の構成や相互関係などについて、理解を深められるようにする。 ・文章を書く活動において、自分の考えや思いを決められた字数で文章を書く経験を積ませる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○ことわざの問題では、正答率が県の平均よりも7.2ポイント高く、ことわざの意味を理解し、正しく使えていると言える。	・朝の学習、家庭学習などを通して、ことわざ、慣用句の学習を継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○話し合いの内容を聞き取る問題では、県の平均より5.3ポイント上回っており、話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができていると考えられる。 ●司会の役割になって参加者の発言の相違点に着目して考えをまとめたりする問題では、県の平均を6.5ポイント低い。	・対話的な活動を授業の中で積極的に取り入れる。 ・国語の時間を中心に、各教科の学習や様々な活動の中で、効果的な質問の仕方や的確に意図を伝える話し方について確認しながら経験を積んでいけるようにする。
書くこと	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じ。 ○資料を適切に読み取り、指定された長さで文章を書くことはできた。 ●読み取ったことに対しての自分の考えを明確にして書く問題では、県の平均よりも6.3ポイント低い。	・作文や感想文、学習の振り返りを書く活動など、自分の考えを文章化する機会を多く取り入れる。 ・読書や、わからない言葉を進んで調べることを通して、語彙力を高める。
読むこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○物語の場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る問題、説明文の内容を読み取る問題の正答率は、県の平均より高い。 ●説明文の内容を読み取る問題では、情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する力が十分ではないと考えられる。	・説明文では、段落の要点をまとめたり、段落相互の関係を的確に捉えたりできるように読み取りを進める。 ・文章を書く活動において、段落を意識して書くように指導していく。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.7	66.1	66.4
	図形	59.7	58.9	58.8
	変化と関係	70.8	66.6	67.0
	データの活用	53.5	54.4	54.2
観点	知識・技能	72.9	70.4	70.6
	思考・判断・表現	50.8	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	49.4	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

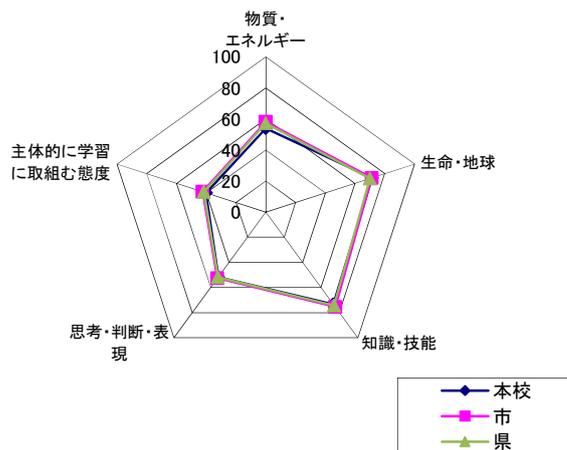
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>校内平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○大きな数やがい数の校内正答率が高い。コース別学習や少人数学習での指導を充実させた成果と思われる。</p> <p>●分数や小数の四則計算に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コース別学習や少人数指導で、反復練習や個別指導を継続させ、基礎的な四則計算の定着を図る。 ・デジタルドリルを家庭での復習に活用し、理解の定着を図る。
図形	<p>校内平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○角の大きさの目盛りの読み取りや平行四辺形の作図の問題では、校内正答率が高い。類似問題を取り上げ、繰り返し学習を行った成果だと思われる。</p> <p>●面積の単位と既習の単位との関係について、理解が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップや少人数学習など、個別の支援を継続して行い、基礎的な事項の定着を図る。 ・面積の大きさについての感覚を身に付けるために、身の回りにある面積を実際に調べるなど、日常生活と結びつける学習活動を積極的に取り入れる。
変化と関係	<p>校内平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係について、理解が定着してきている。年齢を求める問題は日常生活と結びついており、取り組みやすかったと思われる。</p> <p>●基準量を求める除法についての理解が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・割合の基準量と比較量の関係について文章から読み取ることができるよう、テープ図や数直線などの図に表し、視覚的な指導を繰り返し行う。 ・二次元表の読み方について、繰り返し学習を行い、理解を図る。
データの活用	<p>校内平均正答率は、県や市の平均より低い。</p> <p>●グラフの読み取りについての力が不十分である。また、比べて関連付けて考えたり、読み取ったことを正しく表現したりすることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業だけでなく、他教科とも関連させて、表や折れ線グラフ・棒グラフなどを読み取り、考察したことを表現する活動を積極的に取り入れる。 ・発展的な問題にも取り組ませ、対話的な学習を意識して、理解が深まるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	54.0	58.1	57.2
	生命・地球	71.4	71.1	70.0
観点	知識・技能	73.4	75.5	74.4
	思考・判断・表現	51.6	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	40.2	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県や市の平均をやや下回っている。</p> <p>○物の体積と力では、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>●電気のはたらきでは、基本はできているが、教科書と異なる図や表現による問題に慣れていないように見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の際の子どもの自由な意見を取り上げ、課題につなげ、多様な考え方があることに気付かせる。 ・授業中での実験結果の理解にとどまらず、学習した内容が日常生活の中でどのように応用されているかを考えるなどして、発展的に思考する力を育てる。 ・温度による物質の体積の変化や水の状態の変化について復習、確認する。
生命・地球	<p>平均正答率は、県や市の平均をやや上回っている。</p> <p>○ほとんどの問題で正答率が県や市の平均を上回っており、基礎基本の定着が図られていると考えられる。</p> <p>●動物のからだのつくりと運動では、関節について理解しているか問う問題が市の平均を下回っており、主要語句の意味の定着に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主要語句の意味を正しく説明できるよう、自分で単元のまとめをする活動を取り入れ、学習内容の定着を図ることができるようになる。 ・発展的な問題についても、積極的に取り組ませていく際には、対話的な学習を意識して、理解が深まるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習の取り組み方に関する肯定的回答の割合は、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」が84%、「家で、学校の授業の予習をしている」が62%、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」が68.0%とそれぞれの回答で県や市の平均を上回っている。また、平日の勉強時間に関する質問に関しては、学年の目標時間である1時間を超えている児童が66%と多くの児童が家庭学習の定着が図れつつある。「学校の宿題は自分のためになっている」では、100%の肯定的回答だった。今後も家庭と連携を図りながら、家庭学習に対する意欲継続と更なる充実を目指していきたい。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」という設問に対する肯定的回答が100%、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」では94%、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」では76%と学ぶことに前向きに捉え、積極的に学習に取り組んでいる児童が多い。これからも学習の楽しさを感じられるような授業を展開していきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている」と肯定的回答している児童は98%と市や県の平均を大きく上回っており、ほぼ全員が日頃の学校生活に充実感を感じることがうかがえる。また、「人と話すことは楽しい」と肯定的に回答している児童も96%と友達との関係も良好であることもうかがえる。今後も、友人関係も含めて学校生活が楽しいと感じられる気持ちを持続できるよう支援していきたい。

●「毎日食事を食べている」という設問に対する肯定的回答が92%と市や県の平均をやや下回っている。「ふだん(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、映画などを見たり、聞いたりしますか」という設問では、64%以上の児童が2時間以上と回答しており、その中で4時間以上と回答した児童が20%もいた。児童の実態を家庭にも知らせ、学校と家庭と連携して生活習慣を整えていけるようにしていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
楽しい授業・分かる授業の推進	課題提示、教材、板書、授業の展開を工夫したり、一人一人のよさを伸ばす言葉かけや支援を行ったりして、楽しく分かる授業の展開に努めている。	「次の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生・5年生ともに、国語・社会・算数・理科において市・県の平均より高くなった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」や「家庭学習カレンダー&振り返りカード」を活用したり、年間3回「家庭学習強化週間」を実施したりし、家庭と連携して目標時間や内容を意識した家庭学習の習慣化を図っている。	「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生・5年生ともに市・県の平均より高くなった。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生・5年生ともに市・県の平均を上回り、とくに4年生が市の平均回答率より14.2ポイント高かった。
対話的な活動から学びを実感できる学習活動の工夫	「自分の思いや考えをもつ子ども」「進んで伝え合い、学び合う子ども」の育成を目指し、対話的な活動を積極的に授業に取り入れ、主体的に学び合おうとする授業を目指している。	「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生・5年生ともに市・県の平均より高くなった。また「グループなどの話し合いに自分から積極的に参加している」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、5年生で市・県の平均より高くなった。